

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 10 日現在

機関番号：34316

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2023

課題番号：19K13080

研究課題名（和文）芥川龍之介・菊池寛共訳『アリス物語』・『ピーターパン』に関する基礎的研究

研究課題名（英文）A Fundamental Study on Ryunosuke Akutagawa and Kikuchi Kan's Co-translation of "Alice's Adventures in Wonderland" and "Peter Pan"

研究代表者

澤西 祐典 (SAWANISHI, Yusuke)

龍谷大学・国際学部・講師

研究者番号：30771133

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：研究補助期間中に発表論文3本、学会発表4本（うち国際学会3本）、図書出版1件を行った。学会発表「菊池寛・芥川龍之介共訳『アリス物語』および『ピーターパン』について」（日本ルイス・キャロル協会、2022年）では、ユーザーローカルAIテキストマイニング（<https://textmining.userlocal.jp/>）を用いて、下訳である楠山正雄訳『不思議の国』（1920、家庭読物刊行会）との隔たりについて分析などを行った。また、グラフィック社より『芥川龍之介・菊池寛共訳 完全版 アリス物語』（2023・2）を刊行し、原書（菊池・芥川共訳『アリス物語』）にあった脱落箇所や誤植を補い、注釈を施した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年入手が困難となっていた芥川龍之介・菊池寛共訳『アリス物語』について、脱落箇所や誤植を新たに訳出し補い、注釈・解説を付して『芥川龍之介・菊池寛共訳 完全版 アリス物語』（グラフィック社、2023）として上梓した。そのほか、「不思議の国アリス」や「ピーターパン」といった特定の作品に限らず、より俯瞰した観点から芥川旧蔵書・洋書と芥川文学の関りについて考察を行い、論文発表3本、学会発表4本（うち国際学会3本）を行った。その過程で発見された新資料については論文で報告したほか、日本近代文学館の展示「芥川龍之介展—文庫目録増補改訂版刊行記念—」（2024年4月6日から6月8日）や図録でも紹介された。

研究成果の概要（英文）：During the period of the research grant, there were three published papers, four conference presentations (including three international conferences) and one book publication. In the conference presentation 'On the Alice's Tale and Peter Pan, co-translated by Kan Kikuchi and Ryunosuke Akutagawa' (Lewis Carroll Society of Japan, 2022), I used user-local AI text mining (<https://textmining.userlocal.jp/>) to analyse the gap between the lower translation, Masao Kusuyama's translation The Land of Wonder (1920, Katei Yomimono Shuppan-kai), and the gap between the two translations.

In addition, Ryunosuke Akutagawa and Hiroshi Kikuchi co-translated the complete edition of Alice's Tale (2023.2) published by Graphic Publishing, and the omissions and misprints in the original (Kikuchi and Akutagawa co-translated Alice's Tale) were filled in and annotated.

研究分野：日本近代文学

キーワード：比較文学 翻訳 芥川龍之介 菊池寛 ルイス・キャロル 不思議の国のアリス ピーター・パン

1. 研究開始当初の背景

芥川龍之介・菊池寛共訳『アリス物語』および『ピーターパン』は、興文社と文藝春秋社による『小学生全集』シリーズの一環として刊行された。この〈共訳〉は、『不思議の国のアリス』の文豪訳などとして好事家の関心を引いてきたが、これまで芥川あるいは菊池の訳業として両作が取り上げられることはほとんどなかった。本研究では〈共訳〉の分担や翻訳の特徴について明らかにし、創作童話の発表や『小学生全集』を刊行など、児童文学の普及にも貢献してきた芥川・菊池の功績の中で、両作をどう捉えるべきか明らかにしたい。

2. 研究の目的

芥川龍之介・菊池寛共訳『アリス物語』および『ピーターパン』について、〈共訳〉の範囲を再検討し、その翻訳の特徴について明らかにする。また、芥川・菊池の多数の創作との呼応や文学界における功績を残した両者の実人生との連関について検討し、『小学生全集』やこの二巻の意義についてどう捉えるべきか検討する。また、この二作を一般読者が親しめる形で普及したい。

3. 研究の方法

おおきな方針としては下記の三点にまとめられる。芥川旧蔵書における“Alice’s Adventure in Wonderland”・“Peter Pan and Wendy”及び関連図書の書き込み等の調査、共訳『アリス物語』・『ピーターパン』のテキスト解析、『小学生全集』全体像の把握である。芥川旧蔵書については東京・駒場の日本近代文学館にて確認できる。そのほか、菊池の資料等については調査を行う。テキスト分析について、『アリス物語』については、木下信一「菊池寛・芥川龍之介共訳『アリス物語』の謎」(『Mishmash』、2008)において、先行訳である楠山正雄訳『不思議の国』(世界少年文学名作集9、家庭読物刊行会、1920)が下訳として使われたことが指摘されている。芥川・菊池のその他の翻訳や創作を参考に、共訳の担当箇所についてできるだけ精査に検討をくわえる。下訳への依存度も含め、芥川あるいは菊池の訳業として(評価すべきでない、という結論も含めて)評価できるのか考察する。『小学生全集』全体像の把握というのは、『小学生全集』全八十八巻はすべて文学作品ではなく、科学ものや伝記ものなど多数のジャンルにまたがって刊行されている。対象学年も高学年、中学年、低学年に分かれて編纂されている。それらの構成も踏まえ、『アリス物語』『ピーターパン』の位置づけについて検討する。

最終年度においては、特に『アリス物語』および『ピーターパン』の翻刻ないし普及版の出版を計画したい。二つの共訳のうち『アリス物語』については、現代の児童用にパール文庫『アリス物語』(真珠院、2014)として本文が翻刻され、一般の読者が一応は手に取ることができるようになっているが、パール文庫のものは、誤字脱字といった誤植が非常に多く、芥川龍之介・菊池寛の訳稿を正しく伝えるものではない。挿絵も現代風のイラストに差し替えられ、『小学生全集』に載った平澤文吉の味わい深い挿絵は失われている。初版以来、一般には入手が困難な書物となっている。詳細の解説を付した形で、『アリス物語』および『ピーターパン』を一般の読者が手にできるよう、出版社に働きかけ、研究の成果を世に広められるよう努める。また、研究調査過程で新しく浮かび上がってきた論点について、逐次テーマを広げ、論じていく。

4. 研究成果

研究補助期間中に発表論文3本、学会発表4本(うち国際学会3本)図書出版1件を行った。学会発表「菊池寛・芥川龍之介共訳『アリス物語』および『ピーターパン』について」(日本ルイス・キャロル協会、2022年)では、『ピーターパン』が『小学生全集』に採択された意図について芥川の文脈からとらえ直し、芥川旧蔵の“Peter Pan and Wendy”(London, Hodder and Stoughton limited, [n. d.])の書き込み等から芥川の随筆「彼」(1927・1)との関連を指摘した。その成果の一部は論文「作家旧蔵書研究の可能性 芥川旧蔵書・洋書を例として」(『近代作家旧蔵書研究会 年報』第一巻、2023、pp.75-103)に発表している。また同発表内では、『アリス物語』については、下訳である楠山正雄訳『不思議の国』(1920、家庭読物刊行会)との隔たりについて、ユーザーローカル AI テキストマイニング(<https://textmining.userlocal.jp/>)を用いて分析などについて報告した。

また、グラフィック社より『芥川龍之介・菊池寛共訳 完全版 アリス物語』(2023・2)を刊行し、原書(菊池・芥川共訳『アリス物語』)にあった脱落箇所や誤植を補い、注釈を施した。また、当初から研究目的に掲げていた「(当該書籍を)一般読者が親しめる形で普及したい」という目的の通り、グラフィック社よりルイス・キャロル著、芥川龍之介・菊池寛共訳、澤西祐典訳補・注釈・解説『芥川龍之介・菊池寛共訳 完全版 アリス物語』(2023・2〔以下『完全版』と呼ぶ])を刊行した。『完全版』では、原書(菊池・芥川共訳『アリス物語』)にあった脱落箇所

や誤植を新たに訳出し補った。また、注釈において、芥川・菊池の創作・実人生との関わりについて詳しく紹介した。くわえて、「おわりに」で芥川の未定稿「トランプの王(仮)」(『芥川龍之介全集』第22巻所収)との関りや、芥川が敬愛し、『小學生全集』の刊行で裁判沙汰となる北原白秋が訳した『まざあ・ぐうす』(1921年、アルス社)との関りについて新たに指摘した。挿絵には、千森幹子『表象のアリス』(2015年、法政出版局)で関係が指摘されたマーガレット・タラントのものを採用した。2024年6月現在、『完全版』は4刷に至っており、近年、入手困難となっていた芥川龍之介・菊池寛共訳『アリス物語』(『小學生全集』第二十八巻、文藝春秋・興文社、1927)をリーダブルな形で現代の読者に届けるという本研究の目的の一つは達成できたと考える。

そのほか、「不思議の国アリス」や「ピーターパン」といった特定の作品に限らず、より俯瞰した観点から芥川旧蔵書・洋書と芥川文学の関りについて考察を行い、「芥川龍之介の翻訳観」(『芥川龍之介研究』第16巻、pp.23-59)や「芥川龍之介旧蔵書越しに見える「世界文学」像」(『芥川龍之介研究』第17号、2023、pp.56-44)として論文発表した。その過程で発見された新資料について、「新資料紹介(1)日本近代文学館所蔵・芥川旧蔵書に挟まれていたメモ二点と関連書籍への書き込みについて：『志那遊記』、中国渡航時期の読書など」(章い氏との共著、『芥川龍之介研究』第17号、pp.14-29)及び「新資料紹介(2)日本近代文学館所蔵・芥川旧蔵書の英英辞典に挟まれていた紙片について：Webster's International Dictionary of the English Language から発見されたメモ・辞書愛好家としての芥川龍之介」(『芥川龍之介研究』第17号、pp.30-35)等で報告している。それらの新資料については、日本近代文学館の展示「芥川龍之介展一文庫目録増補改訂版刊行記念」(2024年4月6日から6月8日)や図録でも紹介された。

本研究課題を通して、『小學生全集』の世界観」(『日本近代文学』第78号、2008、pp.258-275)、木下信一「菊池寛・芥川龍之介共訳『アリス物語』の謎」、千森幹子『表象のアリス』、夏目康子「菊池寛・芥川龍之介は『不思議の国のアリス』をどう訳したか：丸山英観訳、柳瀬尚紀訳との比較」(『大妻女子大学』第53号、2020、pp.29-39)らの先行研究に負いながら、研究を進めてきたが、『小學生全集』との関連についてなど、十全な研究成果に至らなかった点があった。それらについては今後の研究に期したい。一方で、児童文学・英米文学・古典作品・翻訳といった視点から研究を進めたことによって、新たに見えてきた課題も少なくない。特に「芥川龍之介の翻訳観」(『芥川龍之介研究』第16巻、pp.23-59)で詳述したが、原書の忠実な再現としての翻訳ではなく、異文化の中に立ち現れる「屋中楼」として翻訳を愉しむ姿勢が芥川には見られる。そのような姿勢が、「タルト」を「饅頭」と訳出する、和洋折衷訳スタイルの『アリス物語』に繋がっているととも考えられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 澤西祐典	4. 巻 17
2. 論文標題 芥川龍之介旧蔵書越しに見える「世界文学」像	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 芥川龍之介研究	6. 最初と最後の頁 56-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 澤西祐典	4. 巻 16
2. 論文標題 芥川龍之介の翻訳観	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 芥川龍之介研究	6. 最初と最後の頁 23-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 澤西祐典	4. 巻 1
2. 論文標題 作家旧蔵書研究の可能性 芥川龍之介旧蔵書・洋書を例として	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 近代作家旧蔵書研究会 年報	6. 最初と最後の頁 75-103
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件／うち国際学会 3件）

1. 発表者名 澤西祐典
2. 発表標題 菊池寛・芥川龍之介共訳『アリス物語』および『ピーターパン』について
3. 学会等名 日本ルイス・キャロル協会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 澤西祐典
2. 発表標題 芥川旧蔵書越しに見える「世界文学」像
3. 学会等名 国際芥川龍之介学会（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 澤西祐典
2. 発表標題 芥川龍之介とベルギー
3. 学会等名 第三回「ベルギー学」シンポジウム（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 澤西祐典
2. 発表標題 「世界文学」にアップデートされる芥川作品
3. 学会等名 国際芥川龍之介学会（国際学会）
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 ルイス・キャロル、芥川 龍之介、菊池 寛、澤西 祐典	4. 発行年 2023年
2. 出版社 グラフィック社	5. 総ページ数 256
3. 書名 芥川龍之介・菊池寛共訳 完全版 アリス物語	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------